



大安寺報

曹洞宗 圓祥山大安寺 住職：長岡俊應

〒039-4401 青森県むつ市大畑町本町80番地
Tel 0175-34-2926 Fax 0175-34-6426
E-mail info@daijanji.jp

名句・名言に学ぶ

趙昌仁 (作家)

あなたが虚しく過ごした今日という日は、昨日死んでいった者が、あれほど生きたいと願った明日だ。

月遅れのお盆周辺の時期は、ご先祖様や大切なご家族を想うのみならず、先の大戦で亡くなった方々を慰霊する時期でもあります。広島・長崎での慰霊行事、そして終戦記念日の慰霊行事に合わせ、全国各地で祈りが捧げられます。戦禍の中で無念のうちに亡くなられた方々のことを想う時、「平和の尊さ」とともに、「いのちのはかなさとかけがえのなさ」を痛感せずにはいられません。そして、自らに与えられた時間が有限であることにも気づかされるのです。

冒頭のことばは、死の際にある人の誰もが思うであろう望みを、切実に伝えてくれます。と同時に、生きている私たちに對し、「一日一日をなござりに過ごしてはならない」という戒めを与えてくれています。お盆は、亡き方とのつらく悲しい別れをあらためて思い出す機会ともなりますが、そのことで私たちが学ぶことのできる「あるべき生き方」が、このことばには込められているのです。お盆は、数日間にあつたって亡き方々と

過ごすことのできる期間。また、普段は、遠く離れている家族や親族が故郷に帰省し、賑やかに過ごす期間ともなっています。平素であれば死別の悲しみと一人向き合ねばならないのですが、この時ばかりは、同じ悲しみを共有している者同士で、共にその気持ちを分かちあうことができ、さらに、普段は十分意識できない、「人との縁」を実感できます。

このように、お盆は、「いのちのかけがえのなさ」「人と人との縁のかけがえのなさ」を実感できる、私たちにとつては大切な機会です。と同時に、供養されない無縁の精霊に供養し、利他の心に目覚める機会でもあります。十六日に当山で行われる「施食会」は、亡き方々を直接供養するのではなく、無縁の精霊に「食」を施すことによつて、その功德をみなさんの亡き方々に振り向ける供養。このような様々な意味が込められたお盆の行事を大切に修行し、また、次代に残していきたいものです。

合掌



仏事

Q & A

第二十八回

Q、亡くなった日から四十九日間の中陰供養にはどのような意味があるのですか？

A、「人は亡くなると七日ごとに裁きを受け、次の生が決まる」というインドの輪廻思想から生まれた供養です。しかし、現代における中陰は「故人がお釈迦さまのもとに到るまでの修行期間」として捉えられています。道を一步一步進んでいくように、四十九日間の修行を一つひとつ修めていく。また、七日ごとにやってくる節目には、修行に精進している故人を励ます意味を含めて、篤く供養を行うのです。

出典：「おくる」曹洞宗の葬儀と供養（編著：曹洞宗岐阜県青年会）

当寺の最新情報をチェック！

■大安寺ホームページ

<http://www.daijanji.jp>



@daijanji2010

※行事予定などをお知らせします。



facebook

<http://www.facebook.com/daijanji>

大安寺の宗旨：曹洞宗 本山：福井県永平寺・神奈川県總持寺 高祖：道元禪師 太祖：瑩山禪師
ご本尊：釈迦牟尼仏 本尊唱名：南無釈迦牟尼仏（なむしゃかむにぶつ）